

RESEARCH_

観るで見えたもの

あたりまえと言ってしまうあたりまえのことだが、科学の始まりは観るである。よく観る。これまで見えなかったものを、なんとか見えるように工夫する。時間をかけて見る。そこから予想通りのものが見えた時、“成

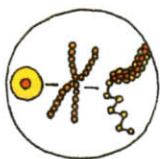
功”となるわけだが、実は思いもよらないものが見え、それが新しい発見につながることも少なくない。自然は私たちの予想を超えているからである。イリオモテヤマネコは沢に暮らし、泳ぎが上手などというも、

長い間の調査あつての思いがけない発見と言える。最近の研究の特徴の一つとして、「細胞内の分子を見る」ということがあげられる。細胞分化、細胞接着、細胞内での代謝、光合成や呼吸などは、

生きていくうえで基本的な現象であり、長い間研究されてきたことである。しかも近年は、それに関わる遺伝子やタンパク質もわかってきた。そこで、分子を見たくなったのである。色素をつけたリ、放射光やNMRな

ど大型機械を用いたり…分子の形や動きを追う研究は、少し面倒なところもあるが、図を参考にして“なるほど”と思うところを見つけていただきたい。“観る”の大切さが見えてくると思う。
(中村桂子)

ART in BIOHISTORY_
表現を観る



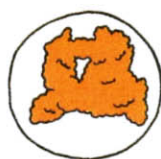
RESEARCH_
01

細胞記憶を支える
クロマチン



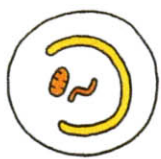
RESEARCH_
02

形づくりを支える分子の
形の変化



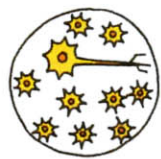
RESEARCH_
03

光合成
タンパク質の
形から知る
植物の賢さ



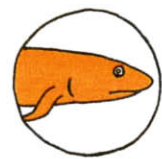
RESEARCH_
04

オート
ファジーの
現場をとらえる
細胞が自分を
食べる理由



RESEARCH_
05

柔軟な脳の
動きを支える
アストロサイト



RESEARCH_
06

新天地を
目指して
陸上への引っ越し
と器官のリサイズ



RESEARCH_
07

ヤマネコが
語る西表島の
生態系



RESEARCH_
08

自然界に
捕食者が存在
することの意味

